

宮城県公文書館における取組

宮城県公文書館 副参事兼次長(総括担当)

門脇 友治 かどわき・ゆうじ

1. はじめに

宮城県公文書館は、平成13年4月に都道府県では27番目に開館した公文書館です。オープン時は旧宮城県図書館の跡地施設を活用し仙台駅の東側に開館しましたが、平成25年4月に仙台市北部の泉区にある宮城県図書館の一面に移転しました。今回、移転に至った経緯や移転の概要さらには東日本大震災の被害状況などを中心に紹介させていただきます。

2. 移転について

2.1 移転の経緯

旧公文書館の立地条件は、仙台駅から約10分で昨年プロ野球日本一になった東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地スタジアムにもおおよそ5分程で行ける位置にありました。春には仙台における桜の名所として仙台市民の憩いの場となっている榴ヶ岡公園に隣接しており、また、学問の神「菅原道真公」を祭神とする榴岡天満宮もすぐ近くにありました。仙台駅を拠点に考えると極めて条件の良いところにあったと今更ながら思います。その場所で、ちょうど干支が一回りし13年目を迎える年度初めの平成25年4月に引っ越しました。

宮城県公文書館は、利用者の減少傾向が顕著であったことから利用者の増加策の検討、あるいは職員定数のスリム化、管理経費の削減、また、収蔵スペースが狭隘化してきたことなどから収蔵能力の拡充などを目的として、類似施設との事業移管や併設について検討を行ってきました。その結果、移転スペースが確保でき、現時点でも県民への情報発信の拠点となっている宮城県図書館が

移転先として適地であるとして、図書館とは別施設の形で同じ建物の中に移転することになりました。

移転の話は、ややもすれば平成23年3月に発生した東日本大震災の被害による移転と思われがちですが、実情は違います。移転構想は平成21年度から話が出されていて、着々と進められていました。東日本大震災で被害を受けた時には、移転のための移転先改修工事予算が既に措置されていました。しかし、東日本大震災により地域全体が甚大な被害を受けたことから、災害復旧のためにそのお金を回せないかということで、一時執行停止し検討されました。最終的には、執行停止は解かれ震災復旧と並行する形で移転事業も進められました。



新公文書館

2.2 移転

公文書館は、移転にともない平成24年10月から平成25年3月までのちょうど6カ月間休館しました。移転先の県図書館の改修工事（総額約2億5,000万円）は、平成24年3月23日から12月26日までの約9カ月間で行なっています。この工事の進

み具合も震災の影響で、建設業者における人員不足や資材不足等で発注工事の入札不落が相次ぎ、なかなか工事に入れないという事態も起きています。そのため工事完了も予定よりかなり遅れ、必然的に引っ越し作業も遅れたために、果たして予定した6カ月間の休館で再開館ができるのかどうか危ぶまれる心配も一時はしましたが、何とか予定どおり移転後の開館を行なうことができました。

引越し作業は、資料約42,000点を含む公文書館の什器備品・事務用品等の梱包・荷解き・配架・設置などです。搬出・運搬・搬入は専門業者に委託しましたが、それ以外の作業はすべて既存の職員体制で行なっています。運搬は、旧公文書館と新公文書館に職員を半分に分け、1回3日間で4回に亘って行ないました。運搬量は、ダンボール箱で5,000個余りになりました。

また、平成25年4月2日からの再開館に向けた準備及び引越しで傷んだ資料の補修作業などもありました。

移転の効果を考えて見ると、移転により空調機設置工事も同時に実施したことで、書庫環境の改善が図られたことは大きなメリットです。また、根本的な改善とまではいかなくとも収蔵能力もアップされました。駐車スペースも、従来、市街地の中にあつたことから40台と不十分でしたが、移転後の駐車場は300台と大幅に改善されています。場所についても、県の公文書館という考え方をすれば、仙台市は県全体から見ると南部に位置しており、今回、仙台的北側に移転したため県内の中心部に少し近づいたことになり、県全体の利用者ということで見ると、よりバランスの取れた位置に移動したことになります。さらに公文書館だけを考えた場合、旧公文書館では、正職員4名で建物の施設管理も行なっていましたが、今回移転したことにともない「家主」から「店子」になって、施設管理は図書館で主体的にしてくれるため、施設管理面での労力がなくなった形になっています。

【平成22年度】

場所・改修項目・改修経費の精査

職員構成等の検討・方向性

新施設での管理区分・管理経費の検討

旧公文書館の利活用検討

【平成23年度】

予算（施設改修設計・工事）

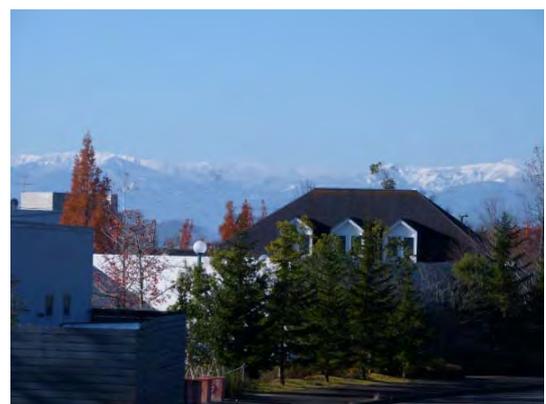
資料整理、移転業者選定、移転作業準備

【平成24年度】

引越、施設改修工事

2.3 新公文書館の周辺環境

新たに引越しをした公文書館は、美しい雪景色の蔵王連峰も望める場所に位置している、草木に囲まれて季節感を身体全体で存分に味わえるあるいは目に感じながら利用できる施設であり、四季折々の自然を楽しむことができる非常に恵まれた自然環境にある施設です。地名の紫山は、村の崎（外れ）にあつたことから由来する名前だということで、それくらい仙台市内とは言っても市街地からは離れた場所に位置しています。以前の場所は仙台駅の所ですので、市街地の真ん中に位置していました。現在は、ここに移転してきて四季折々の生物や草花を身近に感じて満喫しながら読書や研究に励める環境にある幸せをしっかりと感じています。



公文書館からの蔵王連峰

2.4 新公文書館の概要

移転後の公文書館は、図書館建物内にあり、2階に閲覧室、事務室、調査室及び常設展示コーナーを、1階に書庫を配置しています。1階書庫は、図書館の倉庫だったものを改造する形で、倉庫の

中に新たに書庫を建築することにより、壁面及び天井には空気層が設けられ、外気の寒暖や湿気の影響を受けにくい温湿度を一定に保つ機能を備えた箱型構造としました。書庫の面積は344㎡で、ハンドル式移動棚の書架を設置し、恒温恒湿空調設備2台に書庫内を温度22度(±2度)、湿度55%(±5%)を保つとともに、不活性ガス消火設備を備えています。また、内装には天然木ブナフローリング研磨仕上げの床材、無機質系調湿材(酸・アルカリ吸着仕上)の壁材を使用しています。



書庫

3. 東日本大震災の被害状況について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、旧公文書館にも甚大な被害をもたらしました。地震は前触れもなく突然的に訪れました。建物には亀裂がはしり、壁やタイル、天井の空調器具の一部が落下し、窓ガラスは建物全体で133枚が割れました。建物が古かったことからサッシが堅くなってしまっていたために窓ガラスが一斉に割れたようです。この窓ガラスの割れたことにより、館内に居た者の恐怖心はより一層増長されたと思います。あの日は地震後に雪も降って来たくらい寒かったことから、地震がおさまったのち、防犯上のこともありとりあえずはダンボール等で応急的に窓の手当てをして、公共交通機関はすべて停止してしまっていたので、自力で帰れるものは帰宅することにしました。

収蔵資料の被害については、42,000点余りの資料のうち約7割が書架から落下し、同時に書架を

固定しているボルトや金具が外れて多数の書架に歪みが生じました。

余震が頻発する中で4月7日に発生した大きな余震で、元どおりに配架しなおした棚の資料が再び落下しました。この2回の落下で多くの資料に「裂け」「綴り紐切れ」などの破損(補修点数769点)が生じています。

この地震による復旧のために、3月12日から5月15日までの65日間休館を余儀なくされました。



旧公文書館被災状況

被害額は、全体で約4,200万円、うち書架の歪みや窓ガラス等の緊急修繕のために約450万円、建物の修繕のために3,750万円を要しました。建物の災害復旧工事は、発注の遅れなどから平成23年度で施工できなかったため平成24年度に繰り越され、平成24年8月から10月までの工期で実施しました。

地震後は、多くのボランティアの皆さんあるいは他県・市町村の方々に御支援をいただいています。その支援は現在も引き続き来ていただいております。いくら感謝しても感謝しきれません。本当にありがとうございます。

この3月11日であの日から3年目を迎えようとしています。津波で流された街のたたずまいを見ると、地域全体の復旧・復興の歩みは、いまだ道半ばではないかと思っていますので、今後とも引き続き御支援賜れば大変ありがたいです。

【地震の発生日時】

《本震》平成23年3月11日(金)

午後2時46分 震度6強

《余震》平成23年4月7日(木)

午後11時32分 震度6強

4. 宮城県公文書館のこれからの課題について

現在の宮城県行政施策の動きをみると、設立当時は全国情報公開度ランキング第一位の掛け声の下、様々な施策が行なわれてきましたが、その勢いが鈍化傾向にあることは否めないと思います。それにしても昨今の地方における厳しい財政状況や東日本大震災が発生したために、その復旧・復興事業へ事業をシフトせざるを得ないという状況をみると、人事・財政当局にとっては、計り知れない難しい問題があるようです。

そのような中で宮城県公文書館としての今後の課題を何点か挙げてみました。①図書館と同一の施設に入居したことから、図書館と公文書館の両者とも何らかのメリットが生まれ、利用者に対してもサービス向上につながるような連携策の模索 ②各市町村においても公文書館機能の必要性を感じている中で、市町村における公文書館設置等への動きに対する情報提供等の支援 ③宮城県公文書館の検索システムの再構築の検討 ④公文書のライフサイクルに応じた対応策と公文書を扱う職員の意識改革など必要に迫られる公文書管理条例

の整備 ⑤根本的な解決に至っていない収蔵問題の解決策などが挙げられます。

5. おわりに

宮城県公文書館では、平成13年の開館時に県庁の地下書庫に従来永年保存として管理されていたものを引き継ぎされ所蔵したもので、ほぼ県庁の行政文書に限られた所蔵資料となっています。従って、江戸期のものは無く明治年代のものから所蔵しています。また、誰でも非公開資料以外のものであれば、当日、目録を見て申請していただければ、即時その場で書架から資料を出して閲覧することができます。

宮城県公文書館としては、歴史的・文化的に価値の高い公文書を収集・保存し、文化遺産として後世に伝えて行くとともに、閲覧サービス等の提供を行なうことで利用者の学術及び文化の振興に寄与したいと考えています。その点では、公文書館は現代の住民へのサービスを行なうとともに、百年後、千年後の利用者サービスの準備をしている施設でもあるということも踏まえて、今後とも利用者サービスの提供、資料保存管理に努めていきたいと考えています。

データシート**機 関 名**：宮城県公文書館**所 在 地**：〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山一丁目1番1号
宮城県図書館内**電話／FAX**：TEL022-341-3231 FAX022-341-3233**Eメール**：koubun@pref.miyagi.jp**ホームページ**：http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/**交 通**：一般交通機関の場合（いずれも「宮城県図書館前」下車）**【地下鉄泉中央駅から】**

○桂・高森経由宮城大学・工業団地経由泉パークタウン車庫前行・テクノヒルズ東行き

○将監殿経由宮城大学・工業団地経由泉パークタウン車庫前行き

○寺岡・紫山経由宮城大学行き（宮城大学を経由しない場合は、白百合学園前が最寄りです。）

【仙台駅から】

○宮城大学・仙台保健福祉専門学校行き

○県庁市役所泉アウトレット経由または上杉通泉アウトレット経由宮城大学行き

【自家用車の場合】

○泉パークタウン内の仙台ロイヤルパークホテル北側、宮城大学の南側になります。

開館年月日：平成13年4月21日**設置根拠**：宮城県公文書館条例**組 織**：宮城県庁一総務部一県政情報公開室一宮城県公文書館**人 員**：館長（非常勤職員）、正職員3名、専門調査員4名、嘱託員8名（計16名）**所蔵資料**：公文書 35,747点
絵図面 1,565点
行政資料等 8,168点 （平成25年3月末現在）**開 館 日**：火曜日～土曜日 午前9時から午後5時まで

（申請・受付は、閉館時間30分前まで）

休 館 日：日曜日、月曜日、年末年始国民の祝日（祝日が土曜日の場合、開館します。祝日が月曜日の場合、その翌日以降の直近の
休日でない日が休館日となります。）